## 484 骨髄Scintigramの評価 —"Myelodysplastic Syndromeにおける変貌の追跡—

高橋 豊,** 赤坂清司,* 駒木拓行,* 佐藤紘市*
(天理病院RIセンター,* 同, 血液病内科*)

骨髄Scintigram(BMSC)は臨床適用上唯一の活性髄全身分布像の評価手段であるが, 臨床病態に即した追求・評価において, 尚, 不充分な点がある。我々は,"Myelodysplastic syndrome"(MDS)において前白血病期より白血病移行期に追跡施行し, BMSC上の注目すべき変貌を見出したので報告する。対象は非定型再不貧4例の他, MDSに属する不応性貧血(RA), RA with excess of blast(RAEB), RAEB in transform(RAEB−T)計20例で, BMSCは$^{99m}$Tc−S法により, 至適Pre−set count modeで局所撮影を連ねて全身像を得た。既報の如くI) 末梢伸展度を0〜Ⅳa, Ⅳbの6型に分類, Ⅱ) 長管状骨両端のパターンをE, EM, M, IM, O, また, 平板骨を含め, 狭小(Nr), 不規則(IR), 島状(IS)の程度を視察上分類した。MDSと同質の細胞形態を示す非定型再不貧はIR, IS, Nr所見で通常の再不貧と相似性高く, MDSとは異りBMSCは鑑別上有用であった。MDSは伸展Ⅱ〜Ⅲ型でIM〜Mパターンが多く, 一部IR, IS像もみられたが, RAESよりRAEB−T, 更に顕性白血病に移行する過程を追跡し得た3例全べてがⅣ−b型に転じ, 遠位側を中心にEM〜Eパターンに変貌銘記すべき所見と考えられた。

## 485 再生不良性貧血におけるIn-111 Chloride骨髄シンチグラフィー
### —全身の造血髄に殆ど集積を示さなかった5例の検討

竹内 昭, 安野泰史, 江尻和隆, 古賀佑彦(藤田学園 医.放) 井野晶夫, 平野正美(同 内)

In-111 Chloride 3 mCiを用いて21例の再生不良性貧血の患者に骨髄シンチグラフィーを行なった。そのうち全身の造血髄に殆ど集積のみられなかった5例について, 堀田らの重症度分類(t-score)および生存期間との関係について検討した。t-scoreでは、0が4例, 2.5が1例で, 生存期間との関係では, 24ケ月の1例を除き3ケ月以内に全員死亡した。24ケ月生存例は成分輸血を繰り返した例であり, t-scoreは0であった。In-111骨髄シンチグラフィーは予後並びに治療方針に有用であると考えられた。

## 486 塩化インジウムによる骨髄シンチグラフィーの検討

猪狩秀則, 小野 慈, 大越隆文, 川島博之,
野沢武夫, 松井謙吾(横市大・放)

骨髄病変が疑われる症例に塩化インジウムによる骨髄シンチグラフィーを施行し, その有用性に関し検討をおこなった。

対象は再生不良性貧血6例, 骨髄線維症6例, 骨髄腫10例, その他悪性リンパ腫など14例, 計36例である。

$^{111}$In-chloride 3 mCi静注48時間後にSearl社LFOVカメラを用い全身前面像後面像を撮像し, 数例では局所像を得た。

再生不良性貧血ではcentral marrowの描画不良の例が多く, peripheral marrowや腎のRI集積が増加した症例を認めた。骨髄線維症ではcentral marrowの描画は良好の症例が多かったが, 髄外造血を示唆する脾のRI集積増加が半数以上にみられた。骨髄腫では半数以上でcentral marrowが正常に描画された。悪性リンパ腫では放射線照射部位にRI集積の低下がみられた。

塩化インジウムによる骨髄シンチは再生不良性貧血や骨髄線維症の骨髄低形成や髄外造血のimagingとしてまた骨髄穿刺の部位決定に有用であると思われた。

## 487 造血器疾患における$^{201}$Tlの骨・骨髄集積の検討

藤井忠重, 平山二郎, 神林隆幸, 草間昌三
(信大一内), 中西文子, 春日敏夫(信大 放)
矢野今朝人, 上田 仁, 滝沢正臣(信大中放)

$^{201}$Tlの骨・骨髄集積は軽度であり, 造血器疾患に関する報告はほとんど見当らない。演者らは各種の骨髄病変(血液異常)を有する症例で種々の程度の骨・骨髄集積を経験したので報告する。

$^{201}$Tlシンチグラムは胸部4方向の画像を用い, 一部で胸部後面像, 全身像も参考にした。多血症14/19, 悪性リンパ腫3/6, 骨髄腫1/2, 慢性骨髄性白血病2/2, 慢性リンパ性白血病1例などで種々の程度の集積を認めた。

特に真性多血症2例, 鉄芽球性貧血2例, 溶血性貧血, 骨髄腫, リンパ肉腫の各1例などで明瞭な集積を認め, 胸骨, 胸椎などのほか, 頭蓋骨, 骨盤, 大腿骨なども描出され, 骨髄で各造血細胞系, 異常未熟細胞の増殖を認めた。$^{111}$In, $^{67}$Ga, $^{99m}$Tc−MDPなどと類似する集積パターンを示したが解離所見も認められた。

$^{201}$Tlシンチグラフィーは骨髄増殖性疾患の補助診断に役立つ可能性が示唆され, また, $^{201}$Tlの縦隔・肺集積との鑑別にも注意すべきである。

Presented by Medical*Online